

第一章活用事例

中学校版「心みつめて」
「友だちは…」 p.19

中心資料

中学校 読み物資料とその利用 平成四年三月 文部省
「いつも一緒に」

【主題名】

友情・信頼

2-③ 「友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合う。」

【ねらい】

心から信頼できる友達をもち、この大切さを理解し、友情を育もうとする心情を深める。

《ねらいとする道徳的価値について》中学生の時期は、友達と喜びや楽しさを共有したいという気持ちがより一層高まってきます。一方で、その場だけの関係や自分に都合のいい相手とだけ付き合うような場面も見られます。本当の友達とはどのようなものかを考えさせながら、自分はそのように友達と接しているかを振り返らせ、真の友情を築いていくこととする姿勢を身に付けさせることが大切です。

導入



「友だちの存在をうれしく思うのは、どのようなときか思い出してみよう。」

○友達との日々のやり取りを振り返ることによって、友情・信頼について考えさせ、ねらいとする道徳的価値への導入を図る。

○教師が「いつも一緒に」を範読する。



「みゆきに『なによ。私はあなたの宿題係じゃないんだよ。』といった時の真理子は、どのような気持ちだっただろうか。」

○真理子が、今まで抱えてきたみゆきに対する不満を口に出した理由や背景を捉えさせながら考えさせる。



「話しかけてきたみゆきに対して『わざと顔を横にそむけて知らん顔をした』ときの真理子は、どのような気持ちだっただろうか。」

○「何もそこまで」と思っていた真理子が「とにかくもう絶対しやべらない」という心情に変化していく過程を捉えさせる。

中心発問



「一緒に帰ろう」という恵子の誘いを断ったときの真理子は、どのような気持ちだっただろうか。」

○恵子の言葉に真理子が何を感じ、何を考えたのかに気付かせる。

《評価》 真理子の心情の変化に共感して真の友情の在り方に気付けたか。



「一歩一歩確かめるように」『体育館へと向かうときの真理子は、どのような気持ちだっただろうか。』

○真の友情とはどのようなものであるべきかに気付き始めた真理子が、恐れや不安を抱きながらも真の友情を取り戻すために踏み出していく姿を捉えさせ、終末につなげる。

○「心みつめて」 p.19 「友だちは…」を紹介し、真の友達・真の友情について考えさせたい。



「真の友情を育てるために大切なことは何か、考えてみよう。」

○人と人とのつながりにおいて、相手のことを本当に理解し尊重して、お互いの成長のために支え合うことの大切さに気付けるようになる。

板書例

いつも一緒に

友達の存在をうれしく思うのはどのようなときか思い出してみよう

- ・ 困っているところを助けてくれたとき
- ・ 同じことに同じ思いを感じたとき
- ・ 自分のことを理解してくれたとき

みゆきに「なによ。私はあなたの宿題係じゃないんだよ。」といったときの真理子は、どのような気持ちだっただろうか。

- 自分に都合よく私のことを使わないでほしい。
- いつも私にばかり甘えないでほしい。
- 嫌なことを私に押し付けるのを、いい加減にしてほしい。

話しかけてきたみゆきに対して「わざと顔を横にそむけて知らん顔をした」ときの真理子は、どのような気持ちだっただろうか。

- 調子よく話しかけたって、そんなに簡単にはゆるせない。
- みゆきとは話さないと恵子たちと決めたのだから話さない。
- 自分が悪いことをしたなんて思っていないに違いない。

一緒に帰ろうという恵子の誘いを断ったときの真理子は、どのような気持ちだっただろうか。

- 逆らわないから、楽だから、それが親友の条件なのだろうか。
- 本当の友達、本当の友情とは、どのようなものだろうか。
- 自分がみゆきに対して取った行動は正しかったのだろうか。

「一歩一歩確かめるように」『体育館へと向かうときの真理子は、どのような気持ちだっただろうか。』

- みゆきを傷つけたことを許してもらえないと考えると怖い。それでも、もう一度、みゆきと本当の友達としてやり直したい。
- みゆきに話しかけたら恵子に責められるかもしれないという不安もある。それでも、本当の友達を取り戻さなければ後悔することになる。

真の友情を育てるために大切なことは何か、考えてみよう。

- お互いのことを理解し合うこと。
- お互いの長所も短所もしっかり受け止めて、認め合うこと。
- 思いやりをもって支え合い、互いに高め合うこと。

《評価》 真の友情を育てるために大切なことに気付き、それを実践しながら真の友情を育んでいこうとする心情を深めることができたか。

終末

展開